

教材研究等① 「イヤーマフを使った教材研究」 体験を通して多様性への理解につなげる

実践例と解説

※当センターで貸出しを行っているイヤーマフは、「音を遮断する」ことがどのような状態かを「体験できる」ものです。(体験用のイヤーマフは4つ貸出可能です。)

教材研究等

児童・生徒には、聴覚に過敏さがある場合があります。聴覚に過敏さがあると、例えば、大きな音や気になる音（音の大小にかかわらず）がする場面で、頭痛がしたり、落ち着かなくなったり、動けなくなったりします。また、自分では集中したくても、音が気になってしまい、なかなか集中することができないという場合もあります。

イヤーマフには音を遮断する効果があり、装着することが児童・生徒の助けになる場合があります。例えば、授業中や苦手な音がすることが予め分かっている場面では、着けることにより一定の音を遮断し、過敏さからくる不快感を軽減できることで、過ごしやすくなる場合もあります。



しかし、一人ひとりにとってその感覚は異なるため、過敏さがある場合に必ず着けた方が良いという訳ではありません。必要な場面で、必要なときに自分から使うことができるよう、教員は適切に支援することが大切です。

使い方アイデア

【教員間でイヤーマフを体験し、多様性の理解につなげる！】

体験者以外 → 一斉に話をする
体験者 → 本を読む（イヤーマフのある・なしで体験）

イヤーマフの装着体験をし、感想や意見を共有してみましょう。
例えば、「音が何も聞こえなくなる訳ではない」ということや、「ざわざわした感じが軽減されるので落ち着く」などの意見を共有できると良いでしょう。



このような支援機器を使用する際は、使用のメリットを学年や学校の教員同士で共有することが大切です。

関連情報：
イヤーマフ、耳栓、ノイズキャンセリングイヤホン 等

※イヤーマフには、全ての音を軽減するタイプと一部の音を軽減するタイプ（ノイズキャンセリング）があります。当センターで貸出しできるものは、全ての音を軽減するタイプです。